

アホウドリ識別ガイド

写真、解説：長谷川博

協力：大江千尋、堀越雅晴

クロアシアホウドリ 翼開長：200～220cm, 体重 3～4kg



アホウドリ 翼開長：220～240cm, 体重 5～7kg

ごく若い鳥



若い鳥



成鳥



コアホウドリ 翼開長：190～210cm, 体重 2.5～3.5kg



アホウドリの飛翔姿

ごく若い鳥



全身黒褐色でくちばしだけが
ピンク色



くちばしの根元の周りと目の下が淡黄色に



やや若い鳥



淡黄色の部分が増える



背面に白い斑がでる



翼上面の大きな白い斑が目立つ

成鳥



後頭部だけに褐色が残る



胴体が白色で、翼上面の白色部の面積が拡大している

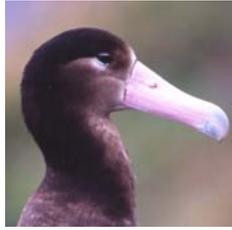


アホウドリ類の横顔

アホウドリ



巣立ち直前



ごく若い鳥



やや若い鳥



若い鳥



成鳥



海上の群れ（手前がクロアシアホウドリ）



クロアシアホウドリ



コアホウドリ

海上に群れるアホウドリ



さまざまな年齢の個体が見られる

アホウドリの特徴と他種との類似(○)と相違(■)

アホウドリ (年齢)

1) 巣立った幼鳥 (1歳未満)

- 全身黒褐色
- くちばしは太く大きい
- 巣立ち直後のひなのくちばしは黒色だが、その一部はすでに淡い色で、1~2カ月でピンク色になる
- 巣立ち直後のひなの足は黒色(その後、しだいに淡くなる)

類似種

クロアシアホウドリ (幼鳥)

- 全身黒褐色
- くちばしは太めだが短い
- くちばしは全体に黒色

- 足は黒色

2) ごく若い鳥 (1~2歳)

- 全身黒褐色
- ピンク色の大きなくちばし
- 顔は黒褐色で、くちばしの根元の周りと目の下が淡黄白色になる
- 足は淡灰青色(黒色が残る個体もいる)

3) やや若い鳥 (3~4歳)

- 全体に黒褐色
- ほほや喉、胸上部が灰褐色~淡黄白色になる
- 黒褐色の翼上面の胴に近い部分に淡色の斑が見えはじめる
- 足は淡灰青色

クロアシアホウドリ (成鳥)

- 全身黒褐色
- くちばしの根元の周りと顔前部が白色
- 翼は全体に黒褐色で、上面に斑はない(腰の周りが白い個体も稀にいる)
- 足は黒色

4) 若い鳥 (5~9歳)

- 全体に淡黄白色の部分が広がるが、後頭部から後頸部には黒褐色が残り、背面が白と黒のまだらになる
- くちばしは鮮やかなピンク色(淡紅色)
- 翼の上面は黒褐色だが、丸く白い斑が大きくなり、目立つ
- 翼の下面は淡灰褐色となり、黒褐色の縁取りや斑が残る

コアホウドリ (若い鳥・成鳥)

- 背を除く胴体は白色
- 目の周りに濃灰色のアイシャドウができる
- くちばしはやや細く、黄色味がかったピンク色
- 背と翼上面が黒褐色であるためそれらが1本になっているように見える
- 翼の下面は白いが、黒いすじ状の斑がある(若い鳥では黒いすじが太い)

5) 成鳥 (10歳以上)

- 胴体は白色で、頭頂部から頸部は濃黄色、胸部は淡黄白色になる
- くちばしの先端部に残っていた褐色が消失
- 背面は、黒褐色の小斑が消え、純白になる
- 翼上面の前側の縁が白くなり、白い部分の面積が拡大して、白色の斑とつながる
- 翼下面全体が白色となり、後ろ側の縁だけが黒色の線となって残る

注1) アホウドリの体の色は年齢とともに白色部の面積が増すが、足環標識個体の観察によると、それらの間にきっちりした対応関係は認められなかった。同一年齢でも性差や個体差が著しい。雄の方が換羽が早く進むようで、8歳（産卵から数えて8年）で胴体が純白になる雄もいれば、13歳でも後頭部から後頸部に黒褐色の羽毛を残している雌もいる。

注2) 観察しているときの光線の状態によって、色彩の印象はかなり異なる。たとえば、クロアシアホウドリは、晴天で強い直射日光を順光で受けているときには褐色味が強く、曇天で弱い光を浴びているときには黒が強調される。また、アホウドリ成鳥の頭部から頸にかけての黄色は、光が強いと淡く、弱いと濃く見える。

注3) 1977年以降に鳥島から巣立った鳥には（上陸できなかった1978年のすくなくとも12羽と、1999年に従来コロニーでひなに足環を装着するときに飛び立ってしまった2羽と、2006年5月に北西斜面の新コロニーから巣立った数羽のひなを除いて）、すべての個体に金属の足環が装着されている。2008年までに長谷川が標識した個体数は2920羽にのぼる。

金属足環は、1979～1985年には右足に、1986～1992年には左足に、1993～1997年には右足、1998年には左足、1999年から現在までは右足に装着された。1979～1997年までは、金属足環の反対側の足にプラスチック製の色足環（3桁の数字を足環の両側に彫刻）が付けられたが、営巣地で火山灰によって磨耗し、それらの大部分はすでに脱落してしまったと推測される。また、金属足環は、1990年まではモネル製（幅13mm）、1991年からはインコロイ製（幅9mm）で、後期のインコロイ製の足環は小さいので海上では見にくい。しかし、映像で記録すれば、それを判別できる可能性がある。

衛星追跡された個体には、別のプラスチック製の色足環が装着されているので、海上で確認できる可能性が高い。

注4) この識別ガイドに掲載されている映像以外に、『写真館』

<http://www.mnc.toho-u.ac.jp/v-lab/ahoudori/Photo/>にも多数の映像が掲載されているので、ぜひ参照してほしい。